

クラシック音楽の鑑賞行動

——関与対象の違いによる類型化とその要因——

○南山大学 川北眞紀子

1 目的

この報告の目的は、クラシックコンサートに訪れる鑑賞者の関与対象の違いをベースに、鑑賞行動を類型化することである。これまで芸術鑑賞者の研究では、美術分野での知見が多くある。鑑賞段階が発達していくとみる鑑賞段階の研究 (Parsons 1987)、鑑賞の順序性を前提としない鑑賞レパートリー研究 (石崎・王 2006) など様々である。また、消費者行動研究分野においては、関与と能力により鑑賞者を分類し、それぞれの鑑賞行動がどのように変遷していくのかを分析するもの (などがある。本研究では、これらの研究を踏まえ、クラシックコンサートの関与対象が、どのようなパターンであるかを見ていくことで鑑賞者を類型化する。関与とは、消費者行動の文脈において「関心の程度」と定義されるキー概念である。購買関与、製品関与など、その対象によってさまざまなタイプが提示されている。そこで、本研究では、聴衆が何に関心をもってコンサートに来場しているのかという点に焦点をあて、分析する。さらに、その要因となるものは何かについても検討する。

2 方法

クラシックコンサートの来場者層へのインタビューを元に、その関与対象パターンを分析することで、類型化を試みる。これまでに、宗次ホール (名古屋市) の来場者を中心に、20名の聴衆を対象とし、半構造化インタビューを行った。20代～70代、男性9名、女性11名である。コンサート来場の動機やその楽しみ方を本人の言葉で語ってもらうことによって、その鑑賞行動を明らかにしていった。それらを、どのような対象に関与しているかという点を中心に分析し、いくつかのパターンに分類していった。関与の対象として、「曲・ジャンル」「演奏」「演奏者」「ホール」「時間」「仲間」の6つが見られたため、それぞれについての記述を分析した。さらに、そのタイプを規定している要因についても検討した。

3 結果

分析の結果、6つのタイプが示された。演奏者へのコミットメントが高い「演奏者型」が2タイプ見られた。演奏面でのファンというタイプだけでなく、個人的なつながりやアイドル的な関わりを示したタイプが少なからず存在した。演奏の一回性を強調し、弾き方や解釈に言及する「演奏型」、演奏会をとりまく雰囲気や時間の心地よさに重きをおく「時間型」、クラシックというジャンルや曲へのこだわりを語る「曲・ジャンル型」、ホールへの愛着を持ち劇場特有の響きや仕組みを理解している「ホール型」、そしていくつかの対象をバランスよく語る「バランス型」が見られた。また、それらを規定する要因は、彼らのこれまでの音楽実践、専門教育、などであることが検討された。

4 結論

「クラシックコンサートに行く」という鑑賞行動を、その関与対象のパターンを手がかりに、6つのタイプに類型化した。同じ大卒の聴衆であっても、その音楽への関わり方が異なることが示された。そして、その違いは、それまでの音楽実践や専門教育といった要因が考えられることも示された。

文献

石崎和宏・王文純, 2006, 『美術鑑賞における発達とレパートリーに関する研究』風間書房。

Parsons, M. J. 1987, "How we understand art" Cambridge university press.